

# 水俣病に考える

(3)

熊大は総力をあげて立った。忽ち熊大が水俣病調査班(医学部)が水俣湾内で捕獲した魚貝類によつて起こるらしい。これを水俣病と名づけた。熊大のそれとまったく同じ病態を呈した。今後工場の汚染に伴つて水俣病のような珍しい新しい病気が日本あるいは世界のどこかで起つた場合、熊大調査班のつてきた研究体制とその経験は「一つのモデルになるだろう」と振り返っている。

## 水銀の発見

まず熊大が水俣病に挑戦したのは三十二年八月二十四日から。各種の資料を集め、患者を付属病院にあつたり、徹底的研究を始めた。十月までに四例(うち二例は胎児)の病理解剖を行なつて「食中毒による脳障害らしい」とを知つた。内科の藤木教授(現九〇〇)徳臣助教授らの臨床的検査(八公衆衛生学)喜田村教授(現神戸医大)の疫学調査(現熊大)



ら。そこでマンガン中毒という見解で各種データを集めながらネコによる発症実験を試みた。しかしこれはくすねた。次にセシウム、ストロンチウム、水銀中毒と試したが、水銀中毒が最も原因不明な病態を呈した。ついに感情的なまでに

## 熊大、総力あげ研究、異説、反論乱れ飛ぶ

た。中毒原因が重金屬ないしは重金属という一応の目安で調べていると、湾内の海水、海産魚貝類から重金屬のマンガンが検出

わるのではないかと思われたほどだった。しかし比較文献を調べていた病理の武内教授は、一九四九年にロンドンでメチル水銀を直接扱つてゐる工場で約千人もの発症患者があり、これが水俣のそれと症状がそっくりなことを発見。さつやく喜田村教室で調べてもらったところ、その年の秋までには完全なデータをそろえることができ、三十四年四月十四日、熊大は「原因物質は新日鉱水俣工場の廢液にまじる、有機水銀だ」と公表した。はつきりと被告席に立たされた工場側は怒り、独自に調査を進めるとともに「原因は旧軍が戦時海に捨てた爆薬だ」といった発表が行なわれたものところだ。世間は「やはり工場廢液が原因だったか」と見るもの、「いや水銀みたいな高価なものを海に捨てるはずがない」と見るもの、いろいろで、学外からも確んな各種異説があつた。工場では有機水銀は放つておらず無機水銀だけなところから「それ見たことか」と各異説論者が飛びついたものだ。

このころには熊大調査班も医学部だけでなく理学部、薬学部も加わり全学的規模で問題に当たつており、確とした証拠は微動だにしなかつた。ついに感情的なまでに

学問上の論争もはげしかった。異説に反論する熊大内田教授(35年4月) 一現名譽教授(35年4月)



しかし、いまだに異論がないわけではなく、昨年ロンドンで開かれた学会では、東京のある大学教授が、あらゆる反論データを集めたとして発表した。しかしイギリスのモーア博士は世界の医学界から根拠がないと疑反響を食つてゐる。わからなかつた無機から有機に変わる過程も酢酸を作る工程で有機水銀になることが、一昨年熊大公衆衛生の入山教授の手で突き止められた。